

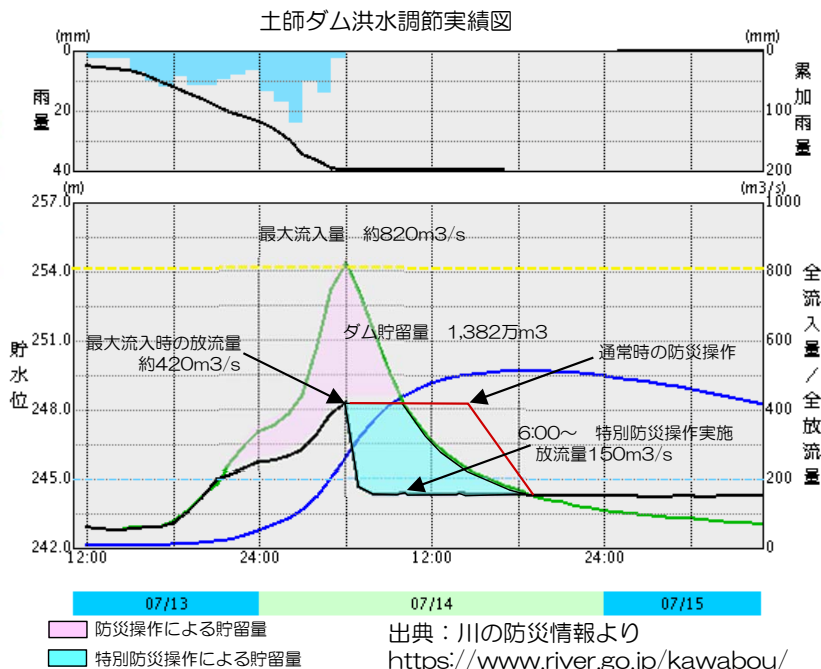
令和2年7月12日からの降雨による土師ダムの調節効果

- ・梅雨前線の影響により、7月12日23時から14日6時までの降雨は、土師ダム上流で流域平均累加雨量約200mmを記録しました。
- ・土師ダムでは、ダムへの流入量が最大で毎秒約820m³に達し、このとき毎秒約400m³の洪水をダムに貯めました。また、14日6時から安芸高田市及び下流河川管理者からの要請により「特別防災操作※」を実施し、放流量を150m³/sに減らしてダムに溜め込む操作を実施しました。
- ・この結果、安芸高田市吉田町付近の江の川の水位を14日午前6時40分頃には約135cm低減させる効果があったと推定され、仮に土師ダムが防災操作を実施していなければ、計画高水位を上回る出水となり、安芸高田市街地で堤防が決壊する等により浸水被害が発生していたと推定されます。

江の川流域図



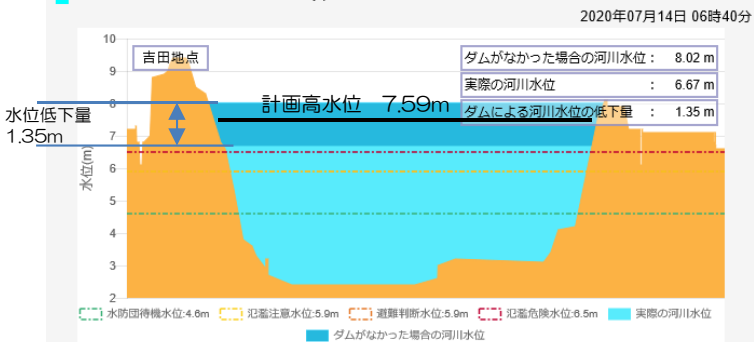
- 凡例
- 雨量
 - 累加雨量
 - 貯水位
 - 全流入量
 - 全放流量
 - 洪水貯留操作開始流量
 - 異常洪水時
 - 防災操作開始水位



出典：川の防災情報より
<https://www.river.go.jp/kawabou/>



ダムによる河川水位の低下量（推定値）



出典：中国地方整備局 ダム防災情報システム
http://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/syokai/busyo/kasen/dam_bousai/



※数値は速報値であり今後変わることがあります。

※「特別防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の状況に応じて、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を規定（操作規則・細則）よりも減じる操作です。今後の雨が予測される場合や、多くの降水量が予想される場合は実施出来ません。